

令和2年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 総括号

令和2年12月16日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

【令和2年産水稻の作柄】

宮城県東部 収穫量 557kg/10a (前年差 Δ1kg) ※1.70mmベース
 533kg/10a (前年差 6kg) ※1.90mmベース
 作況指数 103 (やや良)

(東北農政局, 令和2年12月9日公表)

1 気象経過

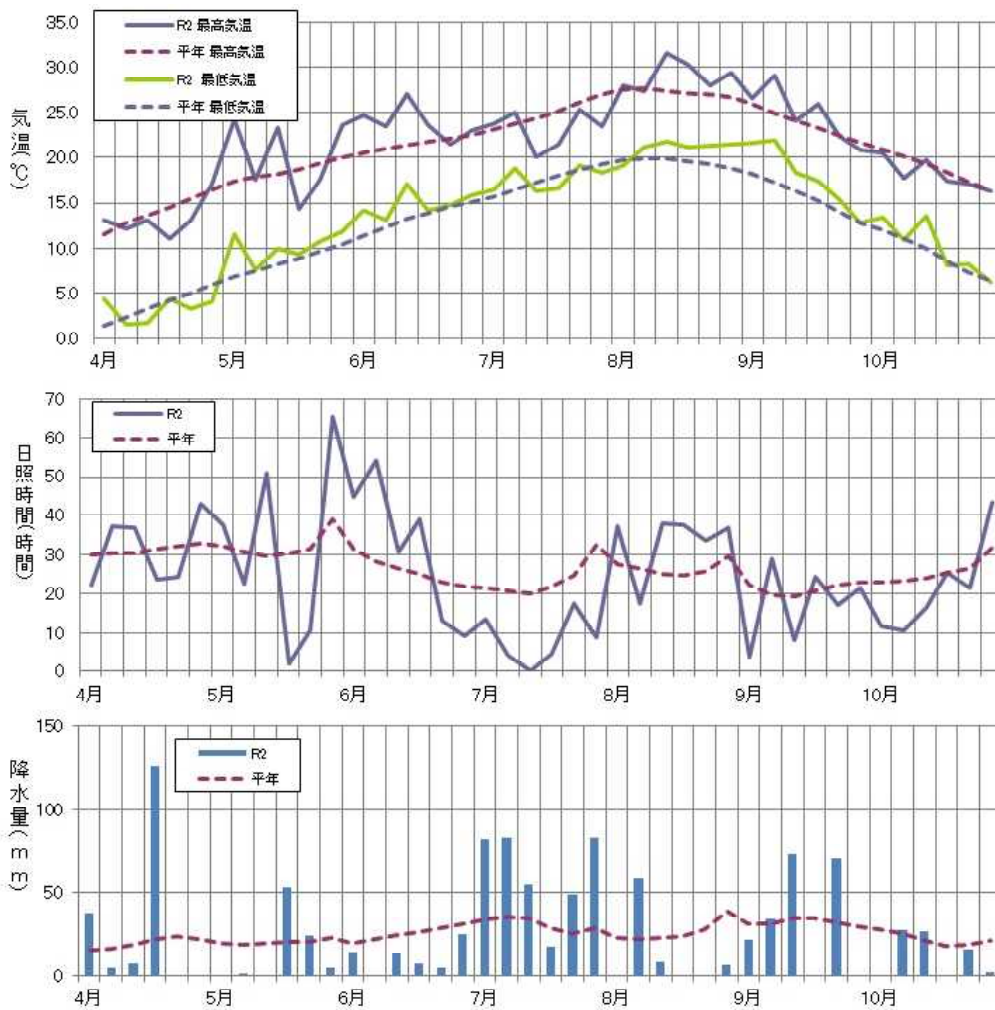


図1 令和2年稲作期間の気象経過図 (気仙沼アメダス)

表1 稲作期間の気象経過 (気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	R2	平年	差	R2	平年	差	R2	平年	差	R2	平年	比	R2	平年	比
4月	8.1	8.8	-0.7	13.2	14.1	-0.9	3.2	3.7	-0.5	187	190	99%	177	119	148%
5月	14.9	13.4	1.5	20.2	18.6	1.6	10.2	8.6	1.6	189	192	98%	84	119	70%
6月	19.0	17.1	1.9	23.9	21.6	2.3	14.8	13.4	1.4	191	156	122%	65	154	42%
7月	19.9	20.8	-0.9	23.2	25.0	-1.8	17.7	17.7	0.0	48	143	34%	371	186	199%
8月	24.5	22.9	1.6	29.1	27.2	1.9	21.0	19.6	1.4	201	159	126%	73	170	43%
9月	20.8	19.3	1.5	24.8	23.7	1.1	17.9	15.6	2.3	104	126	82%	200	187	107%
10月	13.7	13.6	0.1	18.1	18.7	-0.6	10.0	9.2	0.8	129	154	83%	73	131	55%

2 生育経過

(1) 育苗

- 管内の播種盛期は平年より1日遅い4月15日でした（表2）。
- 育苗期にあたる4月は、気温は概ね平年並でしたが、中旬頃は低温傾向となり、一部で出芽不良等、低温の影響が見られました。

表2 播種状況

	播種始期	播種盛期	播種終期
本年	4月5日	4月15日	4月23日
前年	4月6日	4月14日	4月21日
平年	4月5日	4月14日	4月21日
前年差(日)	-1	+1	+2
平年差(日)	0	+1	+2

注1) 始期、盛期、終期はそれぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%で作業が終了した日
注2) 平年値は平成27年から令和元年までの5か年の平均値

(2) 田植

- 管内の田植盛期は平年より1日遅い5月16日でした（表3）。
- 移植後の5月第2半旬及び第4～5半旬の低温寡照に遭遇し、苗の活着はやや不良となりました。

表3 田植状況

	田植始期	田植盛期	田植終期
本年	5月9日	5月16日	5月24日
前年	5月9日	5月15日	5月23日
平年	5月9日	5月15日	5月23日
前年差(日)	0	+1	+1
平年差(日)	0	+1	+1

注1) 始期、盛期、終期はそれぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%で作業が終了した日
注2) 平年値は平成27年から令和元年までの5か年の平均値

(3) 出穂

- 7月は低温寡照で経過したことから、出穂期は平年より3日遅い8月7日となりました。（表4）

表4 出穂状況

	出穂始期	出穂盛期	穂揃期
本年	8月4日	8月7日	8月13日
前年	8月2日	8月5日	8月9日
平年	8月1日	8月4日	8月11日
前年差(日)	+2	+2	+4
平年差(日)	+3	+3	+2

注1) 出穂始期、出穂盛期、穂揃期はそれぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%で出穂した日
注2) 平年値は平成27年から令和元年までの5か年の平均値

(4) 刈取

- 出穂期以降は高温傾向となり、登熟は早く進みました。天候に恵まれたことから、刈取始期は平年より4日早い9月19日、刈取盛期は平年より1日早い10月3日となりました（表5）。

表5 刈取状況

	刈取始期	刈取盛期	刈取終期
本年	9月19日	10月3日	10月15日
前年	9月20日	9月30日	10月16日
平年	9月23日	10月4日	10月15日
前年差(日)	-1	+3	-1
平年差(日)	-4	-1	0

注1) 始期、盛期、終期はそれぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%で作業が終了した日
注2) 平年値は平成27年から令和元年までの5か年の平均値

3 水稻生育調査調査ほ調査結果

(1) 生育状況

- ・草丈は6月1日調査では平年及び前年を下回りましたが、その後は平年及び前年を上回りました（図2, 3）。
- ・莖数は本吉ひとめぼれでは、栽植密度が高かったことや、施肥量が多かった影響で全期間を通じて平年より多く推移しました。志津川ひとめぼれでは、前年並みからやや多い程度で推移しました（図2, 3）。
- ・葉数は6月1日調査では平年及び前年を下回りましたが、その後は平年及び前年並となりました（図2, 3）。
- ・葉色は本吉ひとめぼれでは、全期間を通じて平年より高く推移しました。志津川ひとめぼれでは全期間を通じて前年より低く推移しました（図2, 3）。

表6 水稻生育調査ほ生育ステージ

		田植日	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期	成熟期	登熟期間
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本年	5月14日	7月12日	7月22日	8月5日	9月17日	43日間
	前年	5月14日	7月13日	7月23日	8月3日	9月17日	45日間
	平年	5月15日	7月12日	7月23日	8月4日	9月20日	47日間
	前年差	0	-1	-1	+2	0	-2
	平年差	-1	0	-1	+1	-3	-4
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本年	5月12日	7月10日	7月20日	8月5日	9月17日	43日間
	前年	5月6日	7月12日	7月23日	8月3日	9月17日	45日間
	前年差	+6	-2	-3	+2	0	-2
ひとめぼれ 平均値 調査ほ場数 本年24, 前年 23, 平年17	本年		7月9日	7月21日	8月5日	9月13日	39日間
	前年		7月9日	7月20日	8月2日	9月13日	42日間
	平年		7月8日	7月19日	8月1日	9月13日	43日間
	前年差		0	+1	+3	0	-3
	平年差		+1	+2	+4	0	-4

注1) 平年値は平成27年から令和元年までの5か年の平均値

注2) 志津川ひとめぼれは平成30年から調査のため、平年値はなし

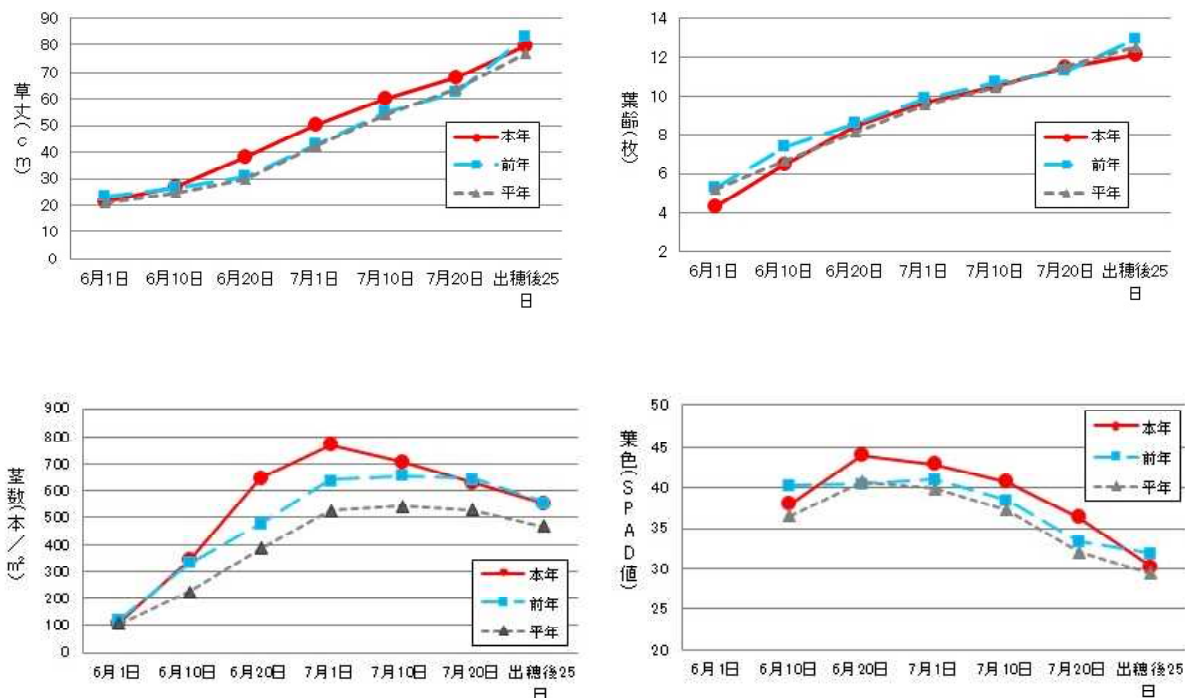


図2 水稻生育調査ほの生育経過（本吉ひとめぼれ）

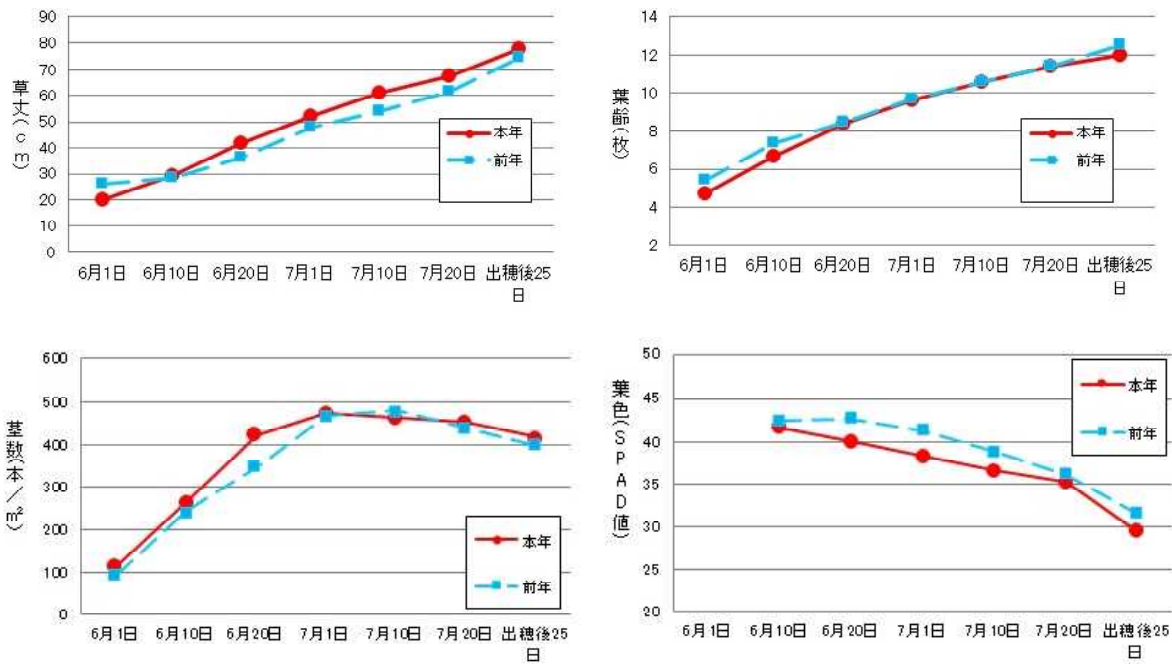


図3 水稲生育調査ほの生育経過（志津川ひとめぼれ）

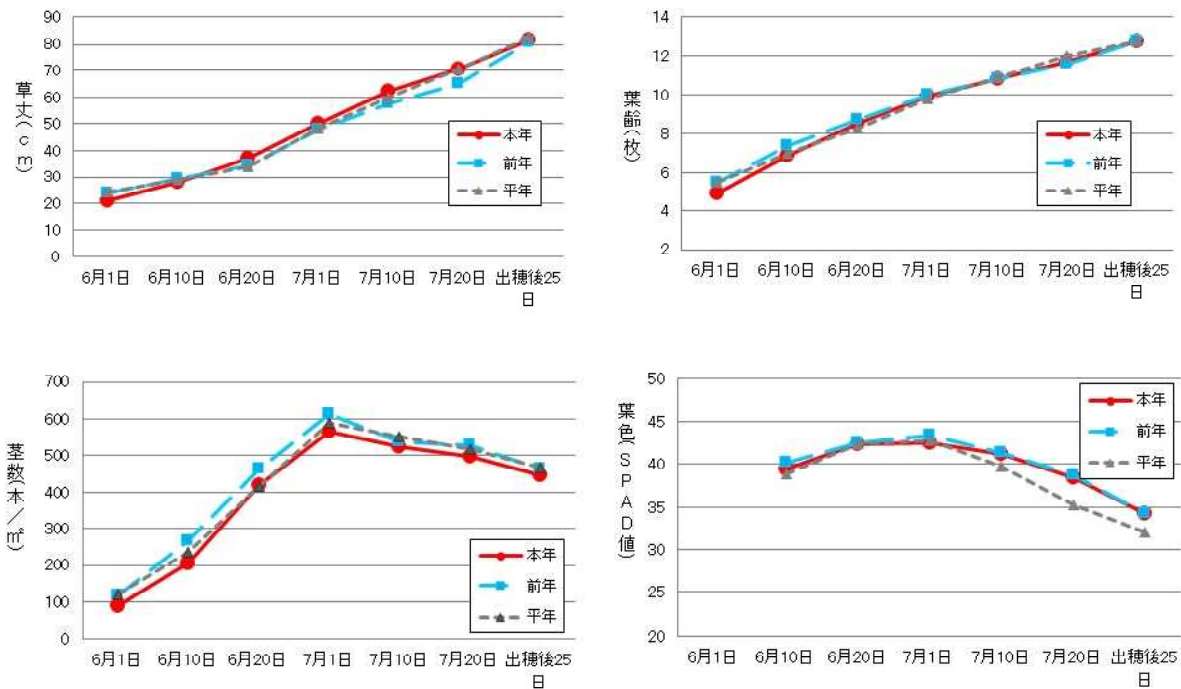


図4 水稲生育調査ほの生育経過（ひとめぼれ平均値）

(2) 収量・品質

- 本吉ひとめぼれでは、穂数，1穂粒数，m²当たり粒数が平年を上回ったことから，精玄米重は平年を上回りました（表7）。農家聞き取り収量は500kg/10a程度となりました。
- 志津川ひとめぼれでは，穂数，m²当たり粒数が前年を上回ったことから，精玄米重は前年を上回りました（表7）。農家聞き取り収量は600kg/10a程度となりました。
- 白未熟粒の発生は少なく，玄米品質は概ね良好でした。一部で斑点米カメムシ類による着色粒が見られました（表8）。

表7 生育調査ほ収量調査結果

品 種 地 区		穂数 (本/m ²)	1穂 籾数 (粒)	m ² 当 籾数 (百粒)	1.9mm					
					登 熟 歩 合 (%)	千粒 重 (g)	精玄 米重 (kg/a)	整粒歩 合 (%)	白未熟 粒 比 (%)	玄米タ ンパク 質
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	545	63.4	345	84.3	21.2	61.7	84.0	3.0	7.1
	前 年	567	68.9	390	72.3	21.5	60.6	79.7	9.1	6.1
	平 年	467	60.3	284	83.8	23.0	53.2	74.5	7.3	6.3
	前年比(差)	96%	92%	88%	117%	99%	102%	105%	33%	1.0
	平年比(差)	117%	105%	122%	111%	92%	116%	113%	42%	0.7
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本 年	441	63.8	281	88.5	22.0	54.8	82.1	3.2	7.2
	前 年	393	63.6	250	91.2	21.7	49.7	85.6	5.5	5.7
	前年比(差)	112%	100%	113%	98%	101%	110%	96%	58%	1.5
ひとめぼれ 平均値 調査ほ場数	本 年	443	67.0	297	89.1	21.4	56.9	81.2	5.1	7.3
	前 年	462	68.6	317	78.0	21.5	52.2	74.8	11.8	6.4
	平 年	465	64.3	298	79.7	22.8	53.7	74.8	9.1	6.7
	本年24,前年 23,平年17	前年比(差)	96%	98%	94%	114%	100%	109%	109%	43%
	平年比(差)	95%	104%	99%	112%	94%	106%	109%	56%	0.5

注1) 平年値は平成27年から令和元年までの5か年の平均値

注2) 志津川ひとめぼれは平成30年から調査のため、平年値はなし

表8 生育調査ほ品質調査結果

品 種 地 区	整粒 比 (%)	胴割粒 (%)	白未 熟粒 (%)	青未 熟粒 (%)	その他 未熟粒 (%)	着色 粒 (%)	死米 (%)	被害 粒 (%)
ひとめぼれ (本吉町)	84.0	0.0	3.0	0.2	10.0	0.1	0.0	2.5
ひとめぼれ (志津川)	82.1	0.0	3.2	0.8	10.6	0.0	0.1	3.1
ひとめぼれ 平均値	81.2	0.1	5.1	0.5	9.6	0.4	0.2	3.2

注) 古川農業試験場調査 サタケ社穀粒判別器 RGQ110Aによる測定

4 だて正夢現地栽培技術普及展示ほ

(1) 生育状況

- ・6月中旬まで草丈・莖数・葉数は前年を下回りました。6月下旬以降は、各指標とも回復し、草丈・莖数・葉数・葉色は前年を上回りました(図4)。
- ・田植日は前年並で、幼穂形成期は前年より1日早く、減数分裂期及び出穂期は前年より1日遅くなりました(表9)。

表9 だて正夢現地栽培技術普及展示ほ生育ステージ

		田植日	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期	成熟期	登熟期間
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5月13日	7月16日	7月28日	8月8日	9月25日	48日
	前 年	5月13日	7月17日	7月27日	8月7日	9月25日	49日
	平 年	5月13日	7月15日	7月24日	8月6日	9月24日	49日
	前年差	0	-1	+1	+1	0	-1
	平年差	0	+1	+4	+2	+1	-1
だて正夢 平均値 調査ほ場数10 普セ9+古試1	本 年	5月11日	7月12日	7月25日	8月8日	9月19日	42日間
	前 年	5月10日	7月11日	7月22日	8月4日	9月19日	46日間
	平 年	5月12日	7月7日	7月19日	8月2日	9月17日	46日間
	前年差	+1	+1	+3	+4	0	-4
	平年差	-1	+5	+6	+6	+2	-4

注) 平年値は平成29年から令和元年度までの3か年の平均値(参考値)

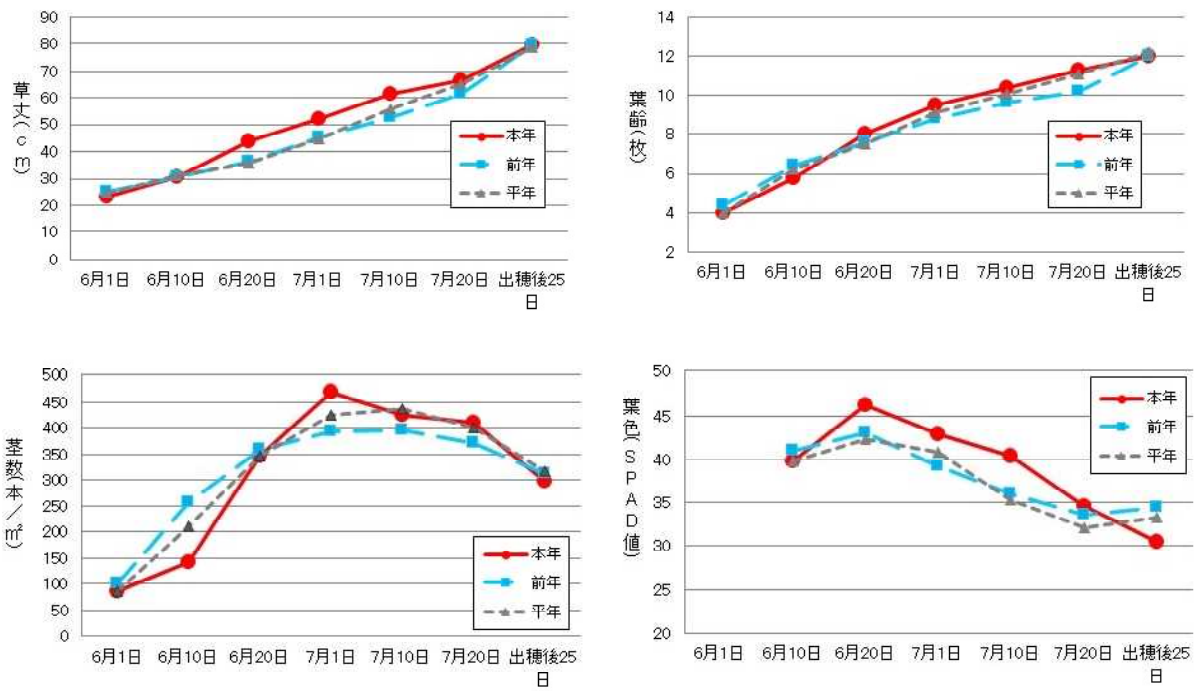


図4 だて正夢現地栽培技術普及展示ほ（本吉）の生育経過

注) 平年値は平成29年から令和元年度までの3か年の平均値（参考値）

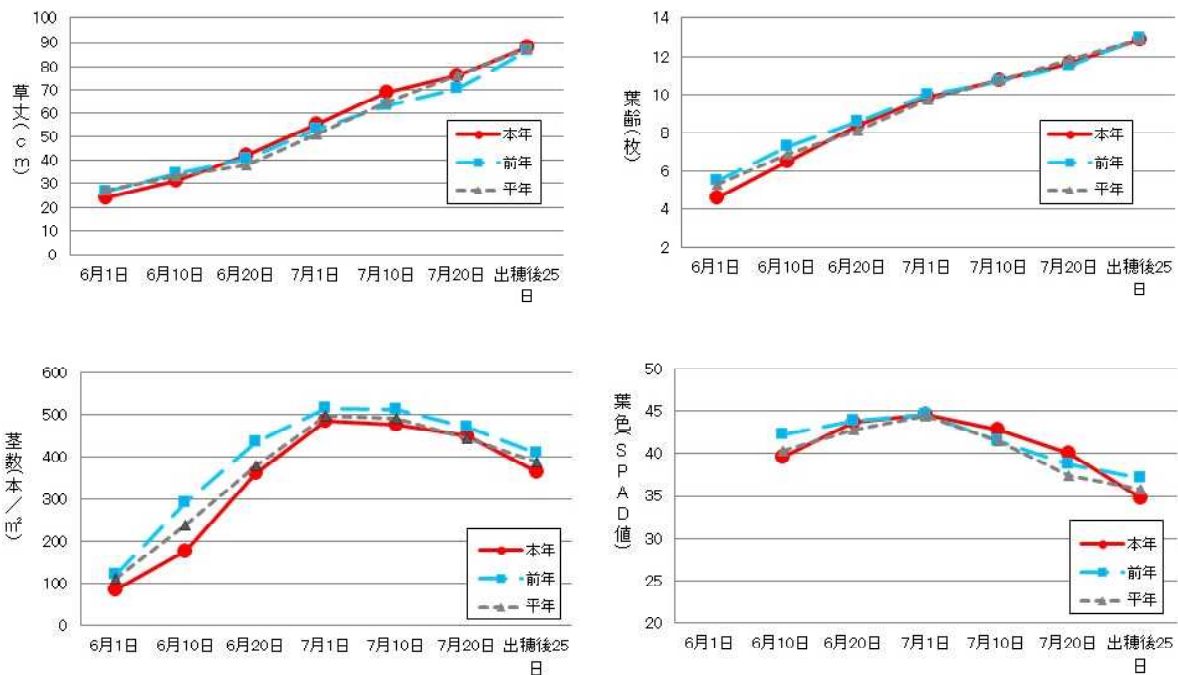


図5 だて正夢栽培技術普及展示ほ（9普及センター＋古川農試 平均値）の生育経過

注) 平年値は平成29年から令和元年度までの3か年の平均値（参考値）

(2) 収量・品質

- 本年産「だて正夢」は、穂数は前年より少なくなりましたが、1穂粒数は前年を上回り、m²当たり粒数は前年を上回りました（表10）。
- 精玄米重は、501kg/10aと前年を上回りました（表10）。農家聞き取り収量では、420kg/10a程度となりました。

表10 だて正夢現地栽培技術展示ほ収量調査結果

品 種 地 区 (田植日) 出穂期		穂数 (本/m ²)	1穂 粍数 (粒)	m ² 当 粍数 (百粒)	1.9mm			
					登熟 歩 合 (%)	千粒 重 (g)	精玄 米重 (kg/a)	玄米タン パク質
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本 年	305	96.0	29.3	84.9	20.1	50.1	6.5
	前 年	348	82.4	28.7	74.8	21.8	46.8	6.7
	平 年	356	80.0	26.4		22.0	44.6	
	前年比(差)	88%	117%	102%	114%	93%	107%	-0.2
	平年比(差)	86%	120%	111%		91%	112%	
だて正夢 平均値 調査ほ場数10 普セ9+古試1	本 年	370	93.4	34.5	85.5	19.1	55.8	6.4
	前 年	411	86.9	35.7	75.6	19.9	53.2	6.7
	平 年	389	90.0	34.5	75.7	20.8	52.6	6.2
	前年比(差)	90%	107%	97%	113%	96%	105%	-0.3
	平年比(差)	95%	105%	100%	113%	92%	106%	+0.2

注) 平年値は平成29年から令和元年度までの3か年の平均値(参考値)

表11 だて正夢現地栽培技術展示ほ品質調査結果

品 種 地 区	みなし 整粒比 (%)	整粒比 (%)	胴割粒 比 (%)	白未 熟粒 (%)	青未 熟粒 (%)	その他 未熟粒 (%)	着色 粒 (%)	死米 (%)	被害 粒 (%)
だて正夢(本吉町)	83.3	25.9	0.0	45.6	0.0	11.7	0.1	0.2	13.4
だて正夢 平均値	82.5	28.9	0.0	42.0	0.4	11.5	0.2	0.2	14.9

注) 古川農業試験場調査 サタケ社穀粒判別器 RGQ110Aによる測定

5 作況と品質

(1) 作況

- ・ 水稻の10a当たり収量は552kgで、前年産に比べ1kg増加しました。これは、全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)は、平年に比べ「やや多い」となり、登熟(開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実)もおおむね天候に恵まれ、「平年並み」となったことによります。

なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は102となりました。(12月9日公表、東北農政局、表12)。

表12 令和2年産水稻の収穫量と作況指数(令和2年12月9日現在、東北農政局)

区 分	1.70mmふるい目		1.90mmふるい目			
	10a当たり収量		10a当たり収量		10a当たり 平年収量	作況指数
	本 年	前年差	本 年	前年差		
宮 城	552	+1	527	+12	515	102
東 部	557	-1	533	+6	518	103

(2) 1等比率

本県的水稻うるち玄米の1等比率は90.5%となっています(令和2年10月末現在、東北農政局、表13)。2等以下に格付けされた主な理由は、着色粒(7.1%)、形質(2.0%)被害粒(0.2%)によるものです。JA新みやぎ南三陸地区本部管内においても、落等要因として、斑点米カメムシ類による着色粒の割合が多くなりました。

表13 1等比率 宮城県 (令和2年10月末現在, 東北農政局)

1等比率(%)	2年産	元年産	30年産	29年産	28年産
各年同期	90.5	63.6	92.9	84.2	90.4
各年最終		67.3	91.6	85.5	90.6

注) 元年産の最終は令和2年3月31日現在

(3) 病害虫の発生(県病害虫防除所)

- ・ 葉いもち：やや多い
- ・ 穂いもち：多い
- ・ 紋枯病：平年並
- ・ ばか苗病：平年並
- ・ 斑点米カメムシ類：平年並

- ・ 葉いもちの発生は、「やや多い」でした。7月に感染好適条件が出現し、一部ほ場で葉いもちの発生が見られました。また、一部で穂いもちが発生し、減収した事例が見られました。
- ・ 紋枯病は、発生量「平年並」でした。年々発生は増加傾向にありますが、紋枯病に効果のある箱施用剤を使用しているほ場においては、発生は少なくなっています。
- ・ ばか苗病は、発生量が「平年並」となり、管内においては育苗期を中心に一部でばか苗病の発生が見られました。
- ・ 斑点米カメムシ類は、発生量が「平年並」となりました。管内においては、斑点米の混入による落等被害が例年と比較して多く見られました。

なお、病害虫の発生状況の詳細については県病害虫防除所ホームページを御覧ください。(URL：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>)

(4) 雑草の発生

除草剤の効果が切れた頃に発生または再生した、ノビエ、ホタルイ、シズイ、コウキヤガラ、オモダカ等の残草が散見されました。

6 次年度の作付けへ向けて

・ ほ場の土づくり

- ・ 近年は、堆肥等の有機物施用が行われず、地力が低下しているほ場が多くなっています。地力の低下は、収量の減少、品質・食味の低下につながります。堆肥や土づくり肥料等を施用し、地力の向上に努めましょう。
- ・ 土づくりの詳細については、「令和2年産気仙沼・南三陸稲作情報第10号」を御覧ください。

・ ほ場の残草状況に合わせた除草剤の選定

- ・ 今年、残草が見られたほ場では、初期除草剤と初中期一発剤、初中期一発剤と中後期剤等を組合せた「体系除草」を行いましょう。除草剤は発生する雑草の種類によって、効果が異なります。発生又は残草した雑草に効果のある除草剤の選定など、不明な点については、当普及センターまでお問い合わせください。